

# 新しい遊びにチャレンジ

## 玉原高原スノーシューハイク

日程：2016年1月28-29日

メンバー：10名



各々の集合地より3台の車に分乗、途中上里SAで今回の参加者10名が顔を合わせる。関越道は渋滞もなく2時間ほどで玉原スキー場の駐車場に到着、平日にもかかわらず若者達がボードを楽しんでいる。天気も良くスノーシューデビューには最適。ちびっ子広場の脇でスノーシューズを装着、12月に今日のためにワンタッチ式のスノーシューを購入、今日はその筆おろしでもある、装着は非常に簡単、同行者が片方を装着している間にワンタッチで準備OK、出発前に赤澤さんよりスノーシューズでの歩き方の基本講義を受け第一歩を踏み出す、かんじきより快調、始めは先輩達の後を歩いていたが、やはり踏み跡の無い雪原を歩く方が気持ち良い。

広い雪原の中にある東屋でランチタイム、20分程休憩後玉原湿原・ブナ平・玉原スキー場への周遊コースへハイザ出発、途中「ブナの湧き水」で喉を潤し、鳥居のある湿原の入口に到着する、湿原は雪に覆われ一面の銀世界、此処からは踏み跡がなく雪が盛り上がった木道らしきところを歩いて行く、両側が1mほど落ち込んだ雪に覆われた木道を慎重に通過、暫らく進んだ時、後ろから坂井さんが何か叫んでいる、誰か先程の木道から落ちたらしい、助けに行けとの指令、急いで戻ると2人が雪のなかでもがいている、赤澤さんと塚本さんが救助中、一人は助けに行き足が穴にハマったらしい、2人とも無事救助される、怪我もなくてホットする、矢張り昔鍛えた回転レシーブのお蔭かな。

湿原が終わり緩斜面に変わった所でルートが解らず、以前歩いたことのある塚本さんに先頭を歩いてもらう、シューズの歯をしっかりと斜面に刺して一歩一歩登る、雪が湿っていて重たい、気がつくとも美しい雪のブナ林の中を歩いていた。標識を探しウロウロするが見当たらず、ブナの巨木の下で後続組を待

ちながら休憩とする、齋藤(光)さんがザックから黒い塊を取り出す、自家製の干し柿だ、暖冬の影響で失敗作だそうだが食べてみると甘くて美味しい。後続組が到着し全員揃ったところで赤澤リーダからは此処で撤退すると指令が出る。後続組が休息している間、ブナの原生林をもう少し満喫したく前方に見える尾根まで散策に出かける。誰も足を踏み入れてないブナ林の雪原をノンビリと歩きスノーシューハイキングを堪能し帰路に就く。

今回、70歳を過ぎて始めてスノーシューにチャレンジ、冬山とは一味ちがう雪原の景色とアニマルトラッキングを楽しむことが出来ました。皆さんありがとうございました。

2日目は朝から雪もよう、関東地方には大雪注意報、本日予定していた「大幽の洞窟」は中止しホテル前にて解散。

14:25 美濃戸赤岳山荘に下山。同日にツルネ東稜から権現岳を目指していたYさんと連絡を取り合い、小沢沢道の駅の温泉「延命の湯」にて合流。三人で露天風呂に浸かり、山の疲れを癒しつつ山談議。長湯となった。創立記念祝賀会での再会を約束して帰路に着いた。

#### <コースタイム>

28日 玉原スキー場⇒11:30⇒中央広場・東屋 12:00⇒ブナ林 13:40⇒三角点 14:00⇒15:20 駐車場

29日 湯檜曾温泉「ホテル湯の陣」朝解散